英文解釈 L01 第 23 講 指示語とつながりを手がかりに複数文を読む

学習目標

- 前後の文を照合し、指示語が何を指すかを文法と意味の両面から説明できる。
- 接続表現と各文の内容を根拠に、追加・対比・理由などの文間関係を読み取ることができる。
- 指示対象や文同士のつながりを保ちながら、2〜3 文の英文を自然な日本語に訳すことができる。

1. 複数文では、前の文の情報を使って読む

解説

一文ずつの構造を正しく読めても、文章全体の意味を取り違えることがある。特に注意したいのが、後の文に現れる it・them・this などの指示語と、文同士のつながりである。

例えば、前の文に 2 つの物が登場し、次の文で it が使われたとする。このとき、it を最も近い名詞に機械的に結び付けてはいけない。重要なのは、**その名詞を it に当てはめたとき、後の文の述語が表す内容と合うか**という点である。

指示語を読む際には、次のように考える。

1. 指示語を含む文の主語・述語・目的語などの関係を確認する。
2. 前の文から指示先の候補を探し、単数・複数や意味が合うかを調べる。
3. 候補を指示語に当てはめ、後の文が自然な内容になるかを確かめる。

単数・複数の一致は大切な手がかりだが、それだけで指示先が決まるとは限らない。前の文に同じ数の名詞が複数ある場合でも、後の文の動詞が何を表すかによって候補を絞れることがある。

また、指示語が特定の名詞ではなく、前の文で述べられた出来事や内容全体を受ける場合もある。名詞を指す場合と出来事を指す場合を、前後の意味から区別することが必要である。

2. 文同士がどのようにつながるかを確かめる

解説

複数文を読むときは、各文の意味を並べるだけでは十分ではない。後の文が前の文に情報を加えているのか、対比しているのか、理由を説明しているのかによって、文章全体の意味が変わる。

既習の接続表現は、この関係を判断する手がかりになる。

- **追加**：前の内容に別の情報を加える。and・also などが手がかりになる。
- **対比**：前後の内容の違いや予想との食い違いを示す。but などが手がかりになる。
- **理由**：ある出来事や判断が生じた理由を説明する。because などが手がかりになる。

ただし、接続表現の日本語訳だけで判断を終えてはいけない。例えば but があれば、前後の何と何が対比されているのかを具体的に確認する。because があれば、何が理由で、何についてその理由を述べているのかを確かめる。

ここで注意したいのは、**出来事が続けて書かれていることと、因果関係が明示されていることは別**だという点である。前の出来事の後に別の出来事が起きても、それだけで「前の出来事が原因で後の出来事が起きた」とは断定できない。和訳で「だから」「〜のせいで」などを補う前に、接続表現と文脈にその根拠があるかを確認する。

©ミライコーチング

複数文を読むときの判断の中心

指示語は、直前の名詞との距離だけでなく、単複と述語の意味との整合性から判断する。

文間関係は、接続表現と前後の具体的な内容を組み合わせて判断する。

それぞれの文の構造を確かめた後、指示対象と文間関係を保って日本語につなぐことが、複数文の英文解釈の基本である。

解説

構造を説明するときは、必要に応じて次の記号を使う。

- 〈　〉：名詞の働きをする大きな句・節
- 〔　〕：名詞を説明する形容詞の働きをする句・節
- (　)：時・理由・目的などを補う副詞の働きをする句・節

これらは語の品詞ではなく、まとまり全体がその文で果たす働きを示す。S（主語）・V（述語）・O（目的語）・C（補語）・M（修飾語）の関係も、必要な箇所で併せて確認する。V は助動詞などを含む述語の範囲として示し、下線を引く。M は修飾の働きを示し、必ず省略できるという意味ではない。同じ英文の図を分ける場合は、外側の骨格と内側の構造を別々に示している。矢印は、注記で示した語句同士の関係を表す。

3. 例題

例題 1　指示語の指す対象を確定する

1

次の英文を読み、設問に答えよ。

第 1 文 Before the evening tour, Mika placed a flashlight beside a paper map on the desk.

第 2 文 When the lights went out, she picked it up and switched it on for the visitors in the hallway.

語注 flashlight：懐中電灯／go out：（明かりが）消える／switch … on：明かり・電源をつける／hallway：廊下

a. 構造確認　第 2 文の When the lights went out が、主節とどのような構造・意味の関係にあるか示せ。

b. 指示対象の確認　第 2 文の switched it on にある it が何を指すかを特定し、前後の内容を根拠に説明せよ。

c. 全文和訳　2 文全体を、指示対象と時間関係が分かる自然な日本語に訳せ。

解説

対象英文（第 1 文） Before the evening tour, Mika placed a flashlight beside a paper map on the desk.

対象英文（第 2 文） When the lights went out, she picked it up and switched it on for the visitors in the hallway.

a. 構造確認の解答・解説　第 2 文の (When the lights went out) は、「明かりが消えたとき」という時を表す副詞節である。この節は、主節 she picked it up and switched it on for the visitors in the hallway にかかり、ミカが物を手に取って明かりをつけた時を示している。

主節では she が共通の主語となり、picked … up と switched … on という 2 つの動作が and で結ばれている。

b. 指示対象の解答・解説　it が指すのは、第 1 文の **a flashlight（懐中電灯）** である。

第 1 文には a flashlight、a paper map、the desk が登場する。a paper map や the desk は a flashlight より後に現れるが、指示先を距離だけで決めることはできない。

決め手になるのは、後ろの switched … on という述語である。明かりをつける操作の対象として自然なのは懐中電灯であり、紙の地図ではない。したがって、it は a flashlight に対応する。第 2 文の picked it up にある it も、同じ懐中電灯を指している。

c. 全文和訳　**直訳：** 夕方の見学ツアーの前に、ミカは机の上で紙の地図のそばに懐中電灯を置いた。明かりが消えたとき、彼女はそれを手に取り、廊下にいる見学者たちのためにそれをつけた。

満点の訳： 夕方の見学ツアーが始まる前、ミカは机の上の紙の地図の隣に懐中電灯を置いた。明かりが消えると、彼女はその懐中電灯を手に取り、廊下にいる見学者たちのために明かりをつけた。

解釈のポイント　直訳では it を「それ」として原文との対応を残している。満点の訳では「その懐中電灯」と具体的に言い換え、何を手に取ったのかを明確にした。どちらも指示対象は変わらない。

「明かりが消えたとき」という時間関係も保持する。時間を表す when を、根拠なく理由を表す because と同じ意味に置き換える必要はない。

(Before 〈the evening tour〉) [M], Mika [S] placed [V] 〈a flashlight〉 [O]
(beside 〈a paper map 〔on 〈the desk〉〕〉) [M].

M “Before the evening tour” / 時 / 懐中電灯を置いた時を示す。
S “Mika” / 動作主 / 次文の she に対応する。
V “placed” / 置いた
O “a flashlight” / 置いた物 / 次文の it が指す懐中電灯。
M “beside a paper map on the desk” / 配置場所 / ここでは on the desk が a paper map を説明する。

(When 〈the lights〉 went out) [M], she [S] picked [V] it [O] up [副詞小辞] and switched [V] it [O] on [副詞小辞]
(for 〈the visitors 〔in 〈the hallway〉〕〉) [M].

M “When the lights went out” / 時の節 / 明かりが消えたとき。理由とは断定しない。
S “she” / 共通主語 / 前文の Mika。2 つの動作に共通する。
V “picked” / 手に取る / picked … up は、目的語 it を挟む句動詞。
O “it” / 対象 / 前文の a flashlight。
phrase “up” / 副詞小辞 / picked と一体で働く。
V “switched” / つける / switched … on は、目的語 it を挟む句動詞。
O “it” / 対象 / 前文の a flashlight。
phrase “on” / 副詞小辞 / switched と一体で働く。
M “for the visitors in the hallway” / 相手・目的 / 廊下にいる見学者たちのため。

©ミライコーチング

(When 〈the lights〉 went out), she picked it up and switched it on (for 〈the visitors 〔in 〈the hallway〉〕〉).
S V
S “the lights” / 節内主語 / 消えたのは明かり。
V “went out” / 消えた / went out は一体の述語。When 節は主節の動作の時を示す。

例題 2　文同士の対比を読み取る

2

次の英文を読み、設問に答えよ。

第 1 文 Our science club planned to meet outside to watch the stars on Friday night.

第 2 文 But dark clouds covered the sky, and we met inside to look at photographs of the planets.

語注 science club：科学部／photograph：写真／planet：惑星

a. 構造確認　第 2 文の and が結ぶ 2 つの節の範囲を示せ。

b. 文間関係の確認　第 2 文の But は、第 1 文と第 2 文のどのような内容を対比しているか。具体的な内容を根拠に説明せよ。

c. 全文和訳　2 文全体を、予定と実際の出来事の関係が分かる自然な日本語に訳せ。

解説

対象英文（第 1 文） Our science club planned to meet outside to watch the stars on Friday night.

対象英文（第 2 文） But dark clouds covered the sky, and we met inside to look at photographs of the planets.

a. 構造確認の解答・解説　and は、次の 2 つの節を結んでいる。

- dark clouds covered the sky
- we met inside to look at photographs of the planets

前半は「黒い雲が空を覆った」、後半は「私たちが惑星の写真を見るために屋内に集まった」という内容である。後半の (to look at photographs of the planets) は、met に対して「何をするために集まったか」という目的を補っている。

and が結んでいる中心は、dark clouds と we という名詞同士ではなく、それぞれ主語と述語を持つ 2 つの節である。

b. 文間関係の解答・解説　But は、**星を見るために屋外に集まる当初の計画と、惑星の写真を見るために実際には屋内に集まったこと**を対比している。

第 1 文の planned to meet outside は、屋外に集まる計画を表す。一方、第 2 文の we met inside は、実際には屋内に集まったことを表している。outside と inside の違いに加え、集まる目的が星の観察から惑星の写真を見ることへ変わっている点が、対比を判断する根拠になる。

c. 全文和訳　**直訳：** 私たちの科学部は、金曜日の夜に星を見るために屋外で集まることを計画していた。しかし、黒い雲が空を覆い、私たちは惑星の写真を見るために屋内に集まった。

満点の訳： 私たちの科学部では、金曜日の夜に星を観察するため屋外に集まる予定だった。しかし空は黒い雲に覆われ、私たちは惑星の写真を見るために屋内に集まった。

解釈のポイント　第 1 文の planned は計画を表す過去形であり、その計画が実現したことまでは示していない。第 2 文の met は、実際に集まった出来事を表している。

また、黒い雲が空を覆ったことと屋内に集まったことは、and で結ばれている。雲の影響によって活動が変わったと考えるのは自然だが、英文はその因果関係を because などで明示していない。訳では「雲が出たので屋内に変更した」と原因を断定せず、接続表現が示す範囲の情報を保つ。

〈Our science club〉 planned
S V

〈to meet outside (to watch 〈the stars〉 (on 〈Friday night〉))〉.
O

S “Our science club” / 計画の主体 / 私たちの科学部。
V “planned” / 計画した / 過去の計画を表し、実行されたとは限らない。
O “to meet outside to watch the stars on Friday night” / 計画の内容 → V “planned” / 星を見るために屋外に集まること。Friday night は予定した活動の時を示す。

〈Our science club〉 planned 〈to meet outside
V M

(to watch 〈the stars〉 (on 〈Friday night〉))〉.
M

V “to meet” / 集まる / to 不定詞内の動作。主体は Our science club。
M “outside” / 集まる場所 / 屋外。次文では実際に inside に集まった。
M “to watch the stars on Friday night” / 集まる目的 / 星を見るため。Friday night は予定した活動の時。

〈Our science club〉 planned 〈to meet outside (to watch 〈the stars〉
V O

(on 〈Friday night〉))〉.
M

V “to watch” / 観察する / 集まる目的を表す to 不定詞内の動作。
O “the stars” / 観察対象 → V “to watch” / 星を観察するという関係。
M “on Friday night” / 予定した時 / 金曜日の夜に観察する予定。planned 自体の日付ではない。

But 〈dark clouds〉 covered 〈the sky〉, and we met inside
S V O S V M

(to look (at 〈photographs 〔of 〈the planets〉 〕 〉)).
M

S “dark clouds” / 第 1 節の主語
V “covered” / 空を覆った / and の前の節の述語。
O “the sky” / 覆われた対象
S “we” / 第 2 節の主語 / 前文の Our science club のメンバー。
V “met” / 実際に集まった / and は雲が空を覆った節と屋内に集まった節を結ぶ。
M “inside” / 実際の場所 / But は前文の屋外で集まる計画と、実際に屋内で集まったことを対比する。
M “to look at photographs of the planets” / 集まった目的 / 惑星の写真を見るため。

©ミライコーチング

But 〈dark clouds〉 covered 〈the sky〉, and we met inside (to look
V
(at 〈photographs 〔of 〈the planets〉〕〉)).
M

V “to look” / 見る / to look は目的を表す不定詞内の動詞。
M “at photographs of the planets” / 見る対象 / look はここでは自動詞。at 以下が見る対象を示し、省略自由な情報ではない。

4. 演習問題

以下の 4 つの文章を読み、各設問 a〜c に答えよ。指示語の指す対象と、文同士がどのようにつながるかを確認してから全文を訳すこと。

演習 1　指示対象と譲歩の関係

1

第 1 文 On Tuesday, Hana carried three library books in two cloth bags to her aunt's house.

第 2 文 The next morning, she returned them to the library before school, although she still had one chapter left to read.

語注 cloth bag：布製の袋／chapter：章／aunt：おば／left：残っている

a. 構造確認　第 2 文の although she still had one chapter left to read が、主節とどのような構造・意味の関係にあるか示せ。

b. 指示対象の確認　第 2 文の returned them to the library にある them が何を指すかを特定し、根拠を説明せよ。

c. 全文和訳　2 文全体を、指示対象と譲歩の関係が分かる自然な日本語に訳せ。

演習 2　前文の出来事を受ける指示語

2

第 1 文 At the bookshop on Saturday, the owner gave a free notebook to every child who entered.

第 2 文 This surprised many parents because the notebooks were usually sold for five dollars each.

語注 bookshop：書店／owner：店主／surprise：驚かせる

a. 構造確認　第 1 文の who entered が、どの名詞を説明しているかを示せ。

b. 指示対象の確認　第 2 文の This が指す内容を具体的に特定し、後ろに続く内容を根拠に説明せよ。

c. 全文和訳　2 文全体を、This の指す内容が正しく伝わる自然な日本語に訳せ。

©ミライコーチング

演習 3　前文への情報の追加

3

第 1 文 The students grew vegetables in the school garden during the spring term.

第 2 文 They also wrote short notes about the plants in their notebooks, and the science teacher checked the notes with them every Friday.

語注 term：学期／note：メモ、短い記録

a. 構造確認　第 2 文の about the plants が、どの名詞を説明しているかを示せ。

b. 文間関係の確認　第 2 文の also は、第 1 文に対してどのような情報を加えているか。具体的な内容を根拠に説明せよ。

c. 全文和訳　2 文全体を、情報の追加関係が分かる自然な日本語に訳せ。

演習 4　前の文で述べた出来事の理由

4

第 1 文 The outdoor tennis lesson did not take place at the community center on Sunday afternoon.

第 2 文 The teacher canceled it because strong winds made the court unsafe for the children in the class.

語注 take place：行われる／community center：地域センター／cancel：中止する／unsafe：安全でない

a. 構造確認　第 1 文の did not take place において、not が否定している内容を示せ。

b. 文間関係の確認　第 2 文は、第 1 文に対してどのような関係にあるか。英文中の表現を根拠に説明せよ。

c. 全文和訳　2 文全体を、否定と理由の関係が正しく伝わる自然な日本語に訳せ。

©ミライコーチング

5. 演習問題の解答・解説

演習 1 の解答・解説

1

対象英文（第 1 文） On Tuesday, Hana carried three library books in two cloth bags to her aunt's house.

対象英文（第 2 文） The next morning, she returned them to the library before school, although she still had one chapter left to read.

a. 構造確認の解答　第 2 文の (although she still had one chapter left to read) は、主節 she returned them to the library before school にかかる副詞節である。although は譲歩を表し、「まだ読むべき章が 1 つ残っていたけれども、それらを返した」という関係を作っている。

主節では she が主語、returned が述語の中心であり、them が返した対象である。譲歩節は、主節で表す返却の事実を否定していない。読み終わっていなかったにもかかわらず、実際に返したという内容になる。

b. 指示対象の解答　them が指すのは、第 1 文の **three library books（3 冊の図書館の本）** である。前の文には three library books と two cloth bags という 2 つの複数名詞が登場する。したがって、them が複数形であることだけでは指示先を決められない。第 2 文の returned … to the library は、図書館へ返却する動作を表す。また、although 以下の one chapter left to read は、まだ本を読み終えていないことを示す。この 2 つの内容が books と対応するため、them は本を指していると判断できる。

c. 全文和訳　**直訳：** 火曜日、ハナは 3 冊の図書館の本を 2 つの布製の袋に入れて、おばの家へ運んだ。翌朝、まだ 1 章分読むところが残っていたけれども、彼女は学校が始まる前にそれらを図書館へ返した。

満点の訳： 火曜日、ハナは図書館で借りた本 3 冊を 2 つの布袋に入れて、おばの家へ持っていった。翌朝、まだ 1 章読み残していたが、学校が始まる前にその 3 冊を図書館へ返した。

解釈のポイント　them を「それら」と訳すだけでも、前後から本を指すことが分かれば意味は成立する。ただし、満点の訳では「その 3 冊」と具体的に示すことで、返却した対象をより明確にしている。

although が表すのは譲歩であり、「読み残しがあったために本を返した」という理由関係ではない。まだ読み残しがある状態と、実際に返却した出来事を区別する。

(On Tuesday)[M], Hana [S] carried [V] 〈three library books〉[O] (in 〈two cloth bags〉)[M] (to 〈〔her aunt's〕 house〉)[M].

M “On Tuesday” / 運んだ日 / 火曜日。
S “Hana” / 動作主 / 本を運んだハナ。
V “carried” / 運んだ
O “three library books” / 運んだ対象 / 図書館の本 3 冊。次文の them が指す対象。
M “in two cloth bags” / 運搬時の容器 / 布製の袋 2 つ。本 3 冊とは別の複数名詞。
M “to her aunt's house” / 運んだ先 / ハナのおばの家。to 以下が到達点を示す。

(The next morning), she returned them (to 〈the library〉) (before school),
M　S　V　O　M　M

(although she still had 〈one chapter 〔left to read〕〉).
M

M “The next morning” / 返却した時 / 前文の火曜日に続く翌朝。
S “she” / 返却した人 / 前文の Hana。
V “returned” / 返却した
O “them” / 返却した物 / 前文の three library books。two cloth bags ではない。
M “to the library” / 返却先 / 図書館へ。
M “before school” / 返却の時 / 学校が始まる前。
M “although she still had one chapter left to read” / 譲歩の節 / まだ読む章が 1 つ残っていたが、実際に本を返した。

(The next morning), she returned them (to 〈the library〉) (before school), (although she still had 〈one chapter 〔left to read〕〉).
S　M　V　O

S “she” / 節内主語 / 前文の Hana。返却した she と同じ人物。
M “still” / 継続 / 読む章がまだ残っている状態を示す。
V “had” / 残っていた / had … left to read で、まだ読む章があったことを表す。
O “one chapter left to read” / 目的語全体 / one chapter left to read を名詞句として捉える。left to read は chapter の後置修飾。to read の未読対象も chapter。

演習 2 の解答・解説

2

対象英文（第 1 文） At the bookshop on Saturday, the owner gave a free notebook to every child who entered.

対象英文（第 2 文） This surprised many parents because the notebooks were usually sold for five dollars each.

a. 構造確認の解答　第 1 文の 〔who entered〕 は、直前の **every child** を説明する関係節である。who は関係節の主語に当たり、entered がその述語である。したがって、every child who entered は「入ってきた子ども一人ひとり」という名詞のまとまりになっている。

b. 指示対象の解答　This が指すのは、**第 1 文で述べられた、店主が入店した子ども一人ひとりにノートを無料で渡したという出来事**である。This は、第 1 文の notebook という名詞だけを指しているのではない。

第 2 文では、This surprised many parents と述べられている。さらに because 以下には、ノートが普段は 1 冊 5 ドルで売られていたという理由が示されている。

普段は代金が必要なノートを無料で配ったことが、多くの親を驚かせたのである。このように、後続の述語と理由の内容を照合すると、This が前文の出来事全体を受けていると分かる。

c. 全文和訳　**直訳：** 土曜日、その書店で、店主は入ってきた子ども一人ひとりに無料のノートを 1 冊渡した。このことは、そのノートが普段 1 冊 5 ドルで売られていたため、多くの親を驚かせた。

満点の訳： 土曜日、書店の店主は来店した子ども全員にノートを 1 冊ずつ無料で配った。ノートは普段 1 冊 5 ドルで売られていたため、その行為に多くの親が驚いた。

解釈のポイント　This の訳し方は、指示対象によって変わる。特定の物を指していれば「これ」「その品物」などと訳せる。一方、この文章のように前文の出来事を指す場合は、「このこと」「その行為」などと訳す方が内容を明確にできる。

また、because 以下は、多くの親が驚いた理由を説明している。ノートが普段有料であるという情報を、単に別の事実として付け加えるのではなく、驚きの理由として読むことが重要である。

(At 〈the bookshop〉) (on Saturday), 〈the owner〉 gave 〈a free notebook〉
M　M　S　V　O

(to 〈every child 〔who entered〕〉).
M

M “At the bookshop” / 授与の場所 / 書店で。
M “on Saturday” / 授与の時 / 土曜日に。gave の時を示す。
S “the owner” / 渡した人 / 書店の店主。
V “gave” / 渡した
O “a free notebook” / 渡した物 / 無料のノート 1 冊。
M “to every child who entered” / 受け取る相手 / 入店した子ども一人ひとり。who entered は child を限定する関係節。

(At 〈the bookshop〉) (on Saturday), 〈the owner〉 gave 〈a free notebook〉 (to 〈every child 〔who entered〕〉).
S　V

S “who” / 関係節内の主語 / who は every child を受け、入店した人を示す。
V “entered” / 入店した / who entered 全体が child を限定する。

This surprised 〈many parents〉
S　V　O

(because 〈the notebooks〉 were usually sold (for 〈five dollars each〉)).
M

S “This” / 前文の出来事 / 店主が入店した子ども全員にノートを無料で配ったこと。ノート単体ではない。
V “surprised” / 驚かせた / This が多くの親を驚かせた。
O “many parents” / 驚いた人
M “because the notebooks were usually sold for five dollars each” / 驚いた理由 / ノートは通常 1 冊 5 ドルで売られていた。無料配布を行った理由ではない。

This surprised 〈many parents〉 (because 〈the notebooks〉 were usually sold
S　V

(for 〈five dollars each〉)).
M

S “the notebooks” / 売られていた物 / 前文で無料配布されたノート。
V “were usually sold” / 受動の述語 / were sold が受動態の核。usually は通常の頻度を表す副詞で、述語範囲に含めて表示する。
M “for five dollars each” / 通常の販売価格 / each はノート 1 冊につき 5 ドルという意味。親や子ども 1 人につきではない。

演習 3 の解答・解説

3

対象英文（第 1 文） The students grew vegetables in the school garden during the spring term.

対象英文（第 2 文） They also wrote short notes about the plants in their notebooks, and the science teacher checked the notes with them every Friday.

a. 構造確認の解答　第 2 文の〔about the plants〕は、**short notes** を説明する形容詞の働きをする前置詞句である。notes が中心となる名詞であり、about the plants は「植物についての」という内容を加えている。したがって、short notes about the plants は「植物についての短いメモ」という名詞のまとまりになる。

b. 文間関係の解答　also は、**生徒たちが野菜を育てたことに加えて、植物についてのメモも書いた**という追加関係を示している。

第 1 文では The students grew vegetables とあり、生徒たちが野菜を育てたことが述べられている。第 2 文では They also wrote short notes と続き、同じ生徒たちが別の活動も行ったことが加えられている。

ここでの also は、2 つの活動の間に理由関係があると断定する表現ではない。「野菜を育てたのでメモを書いた」と訳すと、英文に明示されていない因果関係を加えることになる。

c. 全文和訳　**直訳：** その生徒たちは春学期の間、学校の菜園で野菜を育てた。生徒たちはまた、自分たちのノートに植物についての短いメモを書き、理科の先生は毎週金曜日に生徒たちと一緒にそのメモを確認した。

満点の訳： 春学期、生徒たちは学校の菜園で野菜を育てた。さらに、植物についての短いメモを自分たちのノートに書き、理科の先生は毎週金曜日に生徒たちとそのメモを確認した。

解釈のポイント　第 2 文の They は、第 1 文の The students を受けている。この対応を保つことで、野菜を育てた人とメモを書いた人が同じだと分かる。

also は活動を追加する表現であり、and は第 2 文内の「生徒たちがメモを書いたこと」と「先生がメモを確認したこと」を結んでいる。前の文への情報の追加と、1 文の内部での節の接続を区別すると、複数の内容を無理なく訳せる。

〈The students〉 grew vegetables (in 〈the school garden〉) (during 〈the spring term〉).
S V O M M

S “The students” / 活動の主体 / 生徒たち。次文の They・their・them に対応する。
V “grew” / 育てた / 前文で述べる活動。次文の also が別の活動を追加する。
O “vegetables” / 育てた対象 / 野菜。次文の the plants が指す植物に対応する。
M “in the school garden” / 活動の場所 / 学校の菜園で。
M “during the spring term” / 活動の期間 / 春学期の間。

They (S) also (M) wrote (V) 〈short notes 〔about 〈the plants〉〕〉 (O) (in 〈their notebooks〉) (M), and 〈the science teacher〉 (S) checked (V) 〈the notes〉 (O) (with them) (M) (every Friday) (M).

S “They” / 記録した人 / 前文の The students を指す。
M “also” / 活動の追加 / 前文の野菜栽培に、メモを書く活動を加える。理由は示さない。
V “wrote” / 記録した / and の前の節の述語。
O “short notes about the plants” / 記録した内容 / about the plants は short notes を説明する。
M “in their notebooks” / 記録した場所 / their は前文の生徒たちを指す。
S “the science teacher” / 確認した人 / and は生徒たちの記録と先生の確認という 2 つの節を結ぶ。
V “checked” / 確認した
O “the notes” / 確認した対象 / 前半の short notes を受ける。
M “with them” / 一緒に確認した相手 / them は前文の The students。
M “every Friday” / 確認の頻度 / 毎週金曜日。checked にかかり、wrote の頻度までは示さない。

演習 4 の解答・解説

4

対象英文（第 1 文） The outdoor tennis lesson did not take place at the community center on Sunday afternoon.

対象英文（第 2 文） The teacher canceled it because strong winds made the court unsafe for the children in the class.

a. 構造確認の解答　第 1 文の not は、**take place（行われる）** という述語の内容を否定している。did not take place は「行われなかった」という意味であり、否定されているのは屋外テニス教室の実施である。

at the community center は場所、on Sunday afternoon は時を表す。not がこれらの場所や時だけを否定しているのではない。

b. 文間関係の解答　第 2 文は、**第 1 文で述べた屋外テニス教室が行われなかった理由を説明する関係**にある。

第 1 文では、授業が実施されなかったという事実が示されている。第 2 文では The teacher canceled it と述べ、その授業を先生が中止したことを説明している。さらに because strong winds made the court unsafe for the children in the class によって、中止した理由が示されている。このため、2 文をつなげると、強風でコートが危険な状態になり、先生が授業を中止したことが分かる。

c. 全文和訳　**直訳：** 屋外でのテニスの授業は、日曜日の午後に地域センターで行われなかった。先生は、強い風がそのクラスの子どもたちにとってコートを安全でない状態にしたので、それを中止した。

満点の訳： 日曜日の午後、地域センターでは屋外テニス教室が開かれなかった。強風でコートがその教室の子どもたちにとって危険な状態になったため、先生が授業を中止したのだ。

解釈のポイント　第 1 文では「授業が行われなかった」という事実が示され、第 2 文ではその事情が説明されている。別々に訳すこともできるが、両者の理由関係が分かるようにつなぐと、文章全体が自然になる。

because によって、強風と中止の因果関係は英文中に明示されている。したがって、この問題では「強風のため」「強風で」と訳してよい。

ただし、強風が原因で授業を中止したという情報から、先生が残念に思っていた、子どもたちが不満だったといった感情まで付け加えることはできない。明示された理由と、本文にない情報を区別することが大切である。

〈The outdoor tennis lesson〉 did not take place (at 〈the community center〉) (on 〈Sunday afternoon〉).
S　V　M　M

S “The outdoor tennis lesson” / 実施の対象 / 屋外テニス教室。次文の it に対応する。
V “did not take place” / 実施されなかった / did not が take place を否定する過去の述語。ここでは take place を一体の述語として示す。
M “at the community center” / 実施場所 / 地域センターで。場所だけを否定しているのではない。
M “on Sunday afternoon” / 実施に関わる時 / 日曜日の午後。この場所・時刻での不実施を述べ、別の日や場所まで否定しない。

〈The teacher〉 canceled it (because 〈strong winds〉 made 〈the court〉 〔unsafe (for 〈the children 〔in 〈the class〉〕〉)〕).
S　V　O　M　M

S “The teacher” / 中止した人 / 先生が授業を中止した。
V “canceled” / 中止した / 前文で述べた授業の不実施を説明する。
O “it” / 中止した対象 / it は前文の The outdoor tennis lesson を指す。
M “because strong winds made the court unsafe for the children in the class” / 中止の理由 / because 以下は強風でコートが子どもたちにとって危険になったことを示す。

〈The teacher〉 canceled it (because 〈strong winds〉 made 〈the court〉 〔unsafe (for 〈the children 〔in 〈the class〉〕〉)〕).
S　V　O　C

S “strong winds” / 状態変化の原因 / 強風がコートの状態を変えた。
V “made” / ～の状態にした / made は O と C を結び、O の状態変化を表す。
O “the court” / 状態が変わった対象 / 危険な状態になったのはコート。
C “unsafe for the children in the class” / O の状態 → O “the court” / unsafe はコートの状態。for 以下は誰にとって危険かを示し、in the class は children を限定する。